

立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

第1波、2波の過ちを繰り返さない根本的な感染症対策を

◆感染症対策の原則へ立ち戻れ

菅政権は7日に緊急事態宣言を出しました。日本医師会は昨年12月21日には「医療緊急事態宣言」を発していたので、後手後手の対応です。宣言は2月7日までとされましたが、病床ひっ迫、入院待機者の増加、新型コロナウイルス以外の緊急医療の破たんという状況が反転するかは不明です。

昨年のコロナ発生当初から早期検査・診断・隔離・治療という感染症対策の原則に予算と人手が付けられるべきでした。しかし、第一波、第二波では、8割の接触制限や外出自粛要請という、国民の行動変容に依存。感染者が減ると、真逆の行動を促すGOTOキャンペーンで時間を浪費。第三波を招く事態となりました。

その間、検査や医療の受け皿づくりは疎かなままでした。単なる緊急事態宣言では、同じことの繰り返しで、第四波も避けられません。



衆議院議員あべともこ
プロフィール

神奈川県 12 区 (藤沢市・寒川町)
当選 7 回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこどもクリニック (湘南台) 理事長
現在、内閣委員会・原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ
公式Twitter
@abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko



あべともこ事務所
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索

あべともこと共に歩む会後援会
入会のご案内及びボランティア
スタッフ募集中!



◆迷走を繰り返さず検査と隔離を

感染拡大が続く神奈川県では9日からは医療・介護・福祉施設関係者以外は、感染経路や濃厚接触者の検査を縮小すると発表。10日には、1都3県が国にこうした「積極的疫学調査」を行う保健業務を軽減するための基準や簡略化の方向を示すよう求めました。

追跡調査を止めるだけではかえって感染が潜伏する危険性は大きくなります。医療は介護現場だけでなく、エッセンシャルワーカーや感染者多数地域の予防的検査がまず必要です。



藤沢駅頭「新型コロナなんでも相談」

◆カジノ住民投票を求めた20万票!

立憲民主党神奈川県連(代表 阿部知子)は、11日(祝)に「IRカジノを止める! 民主主義を守る! オンライン決起シンポジウム」を開きました。横浜市では、昨年9月4日から2か月間「カジノの是非を決める住民投票条例」の制定を求める署名活動が行われ、コロナ禍にも関わらず署名は法定数の3倍超の19万3193筆が集まりました。12月23日に直接請求されましたが、市長は反対意見を付し、市議会は1月8日に自公の反対でこれを否決しました。

許しがたい! シンポには「カジノの是非を決める市民の会」小林節共同代表、静岡大学の鳥畑一教授などがリレートーク。枝野幸男代表も登壇し「横浜だけの問題ではない」として1月12日立憲民主党にも対策本部ができることになりました。

衆議院議員 あべともこ事務所 〒251-0025 藤沢市鵜沼石上 1-13-13-1 F

TEL 0466-52-2680 FAX 0466-52-2681 E-mail: inochi@shonanfujisawa.com

立憲民主党神奈川県総支部連合会 〒231-0012 横浜市中区相生町 4-69-2 F TEL 045-226-2377 FAX 045-226-2378